

1. 取締役・監査役の選任に関する考え方

三菱商事では、取締役・監査役の選任方針を次の通り定めております。

また、個別の人事案については、独立役員を中心とするガバナンス・指名・報酬委員会で審議の上、取締役会で決定することとしています。

(1) 取締役の選任方針

三菱商事の取締役は、広範な分野で多角的な事業を行う総合商社の適切な意思決定・経営監督の実現を図るため、社内及び社外それぞれから、豊富な経験、高い見識、高度な専門性を有する者を複数選任することとしています。

具体的には、取締役（社内）は、取締役会議長を務める取締役会長、業務執行の最高責任者である社長のほか、全社経営を担う役付執行役員の中から選任し、また、社外取締役は、企業経営者としての豊富な経験に基づく、実践的な視点を持つ者、及び世界情勢、社会・経済動向等に関する高い見識に基づく、客観的かつ専門的な視点を持つ者から複数選任することとしています。

(2) 監査役の選任方針

三菱商事の監査役は、監査を通じて会社の健全な経営発展と社会的信頼の向上を実現するため、社内及び社外から、監査に必要となる豊富な経験と高度な専門性を有する者を複数選任することとしています。

具体的には、監査役（社内）は、全社経営や財務・会計・リスク管理その他の知識・経験を持つ者から選任し、また、社外監査役は、様々な分野に関する豊富な知識、経験を有する者から選任することとしています。

2. 取締役候補者の個別の選任理由

| | 氏名 | 選任理由 |
|----|--------------|--|
| 社内 | 小林 健 (再任) | プラント事業、船舶・交通・宇宙航空事業等の機械関連事業及び新産業金融事業に従事し、シンガポール支店長、新産業金融事業グループ CEO 等の要職を経て、2010年6月から約6年間、社長として三菱商事の企業価値向上に貢献してきました。2016年4月から取締役会長として、非業務執行の立場から経営の監督機能を担っており、三菱商事における豊富な業務経験と、当社の経営全般、グローバルな事業経営及び管理・運營業務に関する知見を有していることから、引き続き取締役候補者としました。 |

| | 氏名 | 選任理由 |
|----|---------------|--|
| 社内 | 垣内 威彦 (再任) | 農水産事業等の生活産業関連事業に従事し、また、オーストラリア在勤時には事業投資先の企業価値向上に貢献してきました。その後、生活産業グループ CEO 等の要職を経て、2016 年 4 月から業務執行の最高責任者である社長を務めております。現在は、事業経営モデルによる「経済価値」「社会価値」「環境価値」の三価値同時実現を前提とした成長を実現すべく『中期経営戦略 2021』を推進しており、三菱商事における豊富な業務経験と、当社の経営全般、グローバルな事業経営及び管理・運營業務に関する知見を有していることから、引き続き取締役候補者となりました。 |
| | 増 一行 (再任) | 財務・会計関連業務に従事し、主計部長等の要職を経て、2016 年 4 月から最高財務責任者である CFO を務めております。現在は、コーポレート担当役員 (CFO) として、成長投資の足場となる盤石な財務体質の構築及び投融资案件の審査・事業投資全体状況のモニタリングを通じて、三菱商事の企業価値向上に貢献しており、三菱商事における豊富な業務経験と、当社の経営全般及び管理・運營業務に関する知見を有していることから、引き続き取締役候補者となりました。 |
| | 村越 晃 (再任) | 資材事業等の生活産業関連事業に従事し、資材本部長等の要職を経て、2014 年 4 月から泰国三菱商事会社の社長として、同国における三菱商事グループの競争力の最大化に貢献してきました。現在は、コーポレート担当役員 (CDO、CAO、広報、サステナビリティ・CSR) として、デジタル技術を用いた既存事業の価値向上及び新規事業開発、経営力の高い人材を継続的に輩出することを目指す人事制度改革、ガバナンスの実効性向上、リーガル機能の強化、コーポレートブランディング、サステナビリティ関連の取組を推進しており、三菱商事における豊富な業務経験と、当社の経営全般及び管理・運營業務に関する知見を有していることから、引き続き取締役候補者となりました。 |
| | 平井 康光 (新任) | 地域戦略業務に従事し、2012 年 4 月から三菱商事 (上海) 有限公司社長、2017 年 4 月から三菱商事 (中国) 有限公司社長等の要職に就き、中国における市場開発等を通じ同国の三菱商事グループの企業価値向上に貢献してきました。現在は、コーポレート担当役員 (地域戦略) として、グローバルな事業展開の取組を推進するほか、チーフ・コンプライアンス・オフィサーとして三菱商事グループにおけるコンプライアンス体制の強化・自立化を推進しています。また、緊急危機対策本部長として、重大な有事発生時の対応責任者を務めると共に、連結ベースでの事業継続マネジメントを推進しており、三菱商事における豊富な業務経験と、当社の経営全般及び管理・運營業務に関する知見を有していることから、取締役候補者となりました。 |

| | 氏名 | 選任理由 |
|----|---------------|---|
| 社内 | 柏木 豊 (新任) | 電力・エネルギー関連事業に従事し、また、ドイツ在勤時には事業投資先の企業価値向上に貢献してきました。その後、環境事業本部長等の要職を経て、2019年4月から電力ソリューショングループ CEO オフィス室長として、全社施策立案に貢献すると共に、同グループ戦略の策定・実行を担い、再生可能エネルギー等の環境負荷の低い電源とデジタル技術を組み合わせ、電力の安定供給や需給調整機能など顧客に対して新たな付加価値を提供してきました。現在は、コーポレート担当役員（国内開発）、関西支社長として、地場のネットワークをベースとした国内市場開発に取り組んでおり、三菱商事における豊富な業務経験と、当社の経営全般及び管理・運営業務に関する知見を有していることから、取締役候補者となりました。 |
| | 西山 昭彦 (再任) | 長年にわたる実業界での実務・起業・経営経験、シンクタンクでの経営調査、及び大学における経営学の研究を通じて、組織変革・人材開発・経営管理に関する深い造詣を有しており、客観的・専門的な視点から、当社の経営への助言や業務執行に対する適切な監督を期待し、引き続き社外取締役候補者となりました。 |
| 社外 | 齋木 昭隆 (再任) | 外務省において要職を歴任し、外交を通じて培われた地政学に関する深い造詣、及び諸外国のカントリーリスクに関する高い知見とこれらに対処するための広範なネットワークを有しており、客観的・専門的な視点から、当社の経営への助言や業務執行に対する適切な監督を期待し、引き続き社外取締役候補者となりました。 |
| | 立岡 恒良 (再任) | 経済産業省において要職を歴任し、資源エネルギー・製造業等の産業政策、及び国内外の経済政策・動向に係る高い見識、並びにそれらを通じて得たサステナビリティに関する深い造詣を有しており、客観的・専門的な視点から、当社の経営への助言や業務執行に対する適切な監督を期待し、引き続き社外取締役候補者となりました。 |
| | 宮永 俊一 (再任) | テクノロジー分野の深い知見を基に、世界各地で事業を展開するコングロマリッド型製造会社（上場）の取締役社長を長年務め、グローバルな事業経営の経験を有しており、実践的な視点から、当社の経営への助言や業務執行に対する適切な監督を期待し、引き続き社外取締役候補者となりました。 |
| | 秋山 咲恵 (再任) | 国際的な経営コンサルタントを経て、デジタル・IT分野の深い知見を基に、産業用検査ロボット企業を創業し、グローバル企業に成長させたイノベーションに関する高い見識を有しており、実践的な視点から、当社の経営への助言や業務執行に対する適切な監督を期待し、引き続き社外取締役候補者となりました。 |

以 上